

# ミハル・カニユカ ピアノトリオ・プロジェクト

ベートーヴェン : ピアノ三重奏曲 第7番 変ロ長調 Op.97「大公」

チャイコフスキー : ピアノ三重奏曲 イ短調 Op.50「偉大な芸術家の思い出に」



ピアノ

伊藤 恵



ヴァイオリン

漆原 朝子



チェロ

M.カニユカ

2024 11/14 木

開場 18:30 開演 19:00

全席自由 5,000円 25歳以下 2,500円

※ 未就学児のご入場はご遠慮下さい

[企画協力] 一般社団法人ジモートアート

access & contact



〒479-0831 常滑市錦町4-504

とこなめ耳鼻咽喉科クリニック東隣

とこなめ耳鼻咽喉科クリニックの駐車場をご利用下さい

【お問い合わせ】

☎ 高木 090-4217-2380

✉ mimihall@tokoname-jibika.com

📷 Instagram MIMIHALL2024





## 漆原 朝子 (ヴァイオリン) Asako Urushihara, Violin

東京藝大付属高等学校在学中に日本国際音楽コンクールで最年少優勝。ジュリアード音楽院卒業。88年N響定期公演デビュー、ニューヨークでリサイタル・デビューし絶賛を博す。マールボロ音楽祭でルドルフ・ゼルキン等と共演、ザルツブルク音楽祭などにも登場。2003年以後 シューマンとブラームスのヴァイオリンソナタ全曲ライブCDを相次いでリリースして極めて高い評価を得る。

06年にはシューマン没後150周年を記念してヴァイオリンソナタ全曲演奏に加えて、大阪(現日本)センチュリー響と遺作のヴァイオリン協奏曲を演奏し注目と賞賛を得る。08～09年にはペリー・スナイダー、ロータス・カルテットと共に『シューベルト：ヴァイオリン作品全集』をレコーディング。B.スナイダーとは20年以上にわたってデュオを組んでおり、09年にオール・シューベルト、10年には

生誕200周年記念シューマン・プログラムなどテーマ性をもったリサイタルツアーをその後13・15年にも行った。また、12～13年には東京と大阪でベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ全曲ツィクルス(ピアノ=鈴木慎崇)を行い、聴衆にひときわ深い感銘を与えた。

近年では、大作エルガー：ヴァイオリン協奏曲を指揮者ジョセフ・ウォルフと共に2013年広響定期、2015年群響定期・東毛定期、2017年兵庫芸術文化センター管定期(三公演)で共演を続けており、兵庫での演奏はライブレコーディングCDとしてリリースされて話題となり各方面より高評を得ている。平成26年度文化庁芸術祭レコード部門優秀賞受賞。現在、東京藝術大学教授、大阪音楽大学特任教授。



## ミハル・カニユカ (チェロ) Michal Kaňka, Cello

1960年ブラハ生まれ。ミルコ・シュカンパの指導により7歳でチェロを始め、ブラハ音楽院でヴィクトル・モウチュカ(ヴァラフ弦楽四重奏団)の下で研鑽を積む。ヨセフ・フッフロ(スーク・トリオ)の下で学んだブラハ芸術アカデミー時代の1983・84年には、グレゴール・ピアティゴルスキー・セミナーに参加し、アンドレ・ナヴァラ、モーリス・ジャンドロン、ポール・トルトゥリエらの指導を受けた。

1980年ブラハの春国際音楽コンクールで名誉賞受賞。翌年、チェコスロヴァキア(当時)国内コンクールでグランプリを獲得。1982年チャイコフスキー・コンクール、1983年ブラハの春国際音楽コンクール(第1位)などで上位入賞を果たす。1986年にはミュンヘン国際音楽コンクールの勝者となった(第1位なしの第2位)。カニユカは、チェコ・フィル、ブラハ放送響、バイエルン放送響、

ベルリン・ドイツ響、ロイヤル・リヴァプール・フィル、ローザンス室内管、ブラハ室内管、ブラハ室内フィルなどのトップ・オーケストラとも共演を重ね、リサイタルも世界各国で開いてきた。また、ブルノ・フィルでは1995年以来定期的にソリストとして客演を続け、ブラハ放送響では2003年から指定ソリストとして活躍している。その演奏は放送で度々紹介されていることはもちろん、CDも多数リリースしており、いずれのレコーディングも数々の受賞を得るなど極めて高く評価されている。室内楽分野でもその活動は精力的だ。ブラジャーク・クワルテット、ベートーヴェン弦楽トリオのメンバーとして、世界中の主要なコンサートホールに立ち、数々のCDを録音している。

使用楽器はフランスのクリスチャン・パヨン2006年製で、同じくフランスのニコル・デュシュリユー2000年製の弓を使用する。現在、ブラハの春国際音楽コンクール会長、ブラハの春国際音楽祭芸術委員などの要職を務めており、まさにチェコを代表する音楽家として揺るぎない評価と地位を獲得している。



## 伊藤 恵 (ピアノ) Kei Itoh, Piano

ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学、ハノーファー音楽大学において名教師ライグラーフ氏に師事。

1983年第32回ミュンヘン国際音楽コンクールピアノ部門で日本人として初優勝。サヴァリッシュ指揮バイエルン国立管と共演し、ミュンヘンでデビュー。その後もミュンヘン・シンフォニカ、フランクフルト放送響、ベルン響、チェコ・フィルの定期公演などに出演。日本ではN響との協演、各オーケストラとの共演、リサイタル、室内楽、放送と活躍。

CDの代表作は、シューマン・ピアノ曲全曲録音「シューマニアナ1～13」。2007年秋には全集完成記念コンサートを行った。さらに、2008年にリリースを開始した「シューベルト ピアノ

作品集1～6」は1作ごとに注目を集め、第6集は2015年度レコード・アカデミー賞、第70回文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞。最新盤は「ショパン/24の前奏曲、シューマン/クライスレリアーナ」。

また、サイトウ・キネンフェスティバル松本はじめ武生国際音楽祭、軽井沢音楽祭、リゾナーレ音楽祭、東京・春・音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンなどに参加。2008年からの新たな8年シリーズではシューベルトを中心としたリサイタルを開催。1993年日本ショパン協会賞、1994年横浜市文化奨励賞受賞。現在、東京藝術大学教授、桐朋学園大学特任教授。